

感染制御部で実施中の臨床研究についてのお知らせ

東京大学医学部附属病院感染制御部・感染症内科では、JMDC 社から購入したデータを使い、以下の研究をしております。

【研究課題】

ビッグデータを用いた感染症の罹患率、有病率、自然経過、治療効果、予後に関する検討（倫理委員会承認番号：2024216NIe）

【研究機関名、研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学医学部附属病院 感染制御部・感染症内科

研究責任者 堤武也 感染制御部 教授

担当業務 データ解析

【共同研究機関】

東京大学医科学研究所 感染症分野

この研究に利用する試料・情報は共同研究機関の範囲のみで利用されます。

【研究期間】

2024年7月18日から 2029年3月31日(延長の可能性あり)

【対象となる方】

2005年1月1日～2023年8月31日に、JMDC社が保有している全国の健康保険組合の受診データ、累計で1700万人以上の患者さんが対象となります。

注) 上記データに東京大学医学部附属病院を受診した患者さんが含まれている可能性はございますが、患者情報、病院情報は匿名化されており、確認する方法はございません。

【研究の目的】

COVID-19、梅毒、C型肝炎ウイルスなど多くの感染症がいまだに流行し、そのコントロールに難渋しています。これらの疾患の感染リスク、感染経路を特定するには正確な罹患率や有病率の推定が必要になりますが、そのためには感染者だけでなく母集団の情報が必要で、保険者ベースのビッグデータ研究が有効な手法となります。また、感染前の治療、治療効果、予後や再感染率の評価も、病院単位での情報より、病院が変わっても追跡可能な保険者ベースのビッグデータ研究が有効です。今回、JMDC社から購入したデータを用い、感染症、消化器疾患の罹患率、有病率、自然経過、治療効果、予後に関する検討を行います。

【研究の意義】

本研究により、様々な感染症の感染率等、背景因子および予後の解析を行うことにより、高リスク集団の特定および適切な検査・予防体制の構築、新規治療等の開発により、感染症流行の抑制および予後改善に繋がることが期待されます。

【研究の方法】

JMDC社から購入した診療情報を用いて、様々な感染症の感染リスクの評価、有病率・罹患率、再活性化率の推定およびその背景因子や合併症を含む予後について解析を行います。また、診療に用いた患者情報を用いるだけで、研究に伴い新たに患者さんに生じるご負担はございません。

【個人情報の保護】

すでに匿名化された情報を受け取り、解析いたします。個人の特定はできません。

取得した情報等は研究責任者のみ使用できる鍵のかかるロッカーで厳重に保管し、使用時はパスワードロックをかけたパソコン、ハードディスクにより解析を行います。すでにどの個人のものか特定できない状態で取得されたデータのため、あなたの情報等を特定することはできません。そのため、同意を取り消すこと、研究への参加を取りやめることはできません。

【問い合わせ先】

東京大学医学部附属病院 感染制御部・感染症内科 教授 堤武也

住所:東京都文京区本郷 7-3-1 電話:03-3815-5411 内線 35335 FAX:03-5800-8796

E メールでのお問い合わせ: takeyatsutsumi@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

医療機関名 東京大学医学部附属病院 感染制御部・感染症内科 診療科責任者名 堤武也